鳥取大学

産学・地域連携推進たより

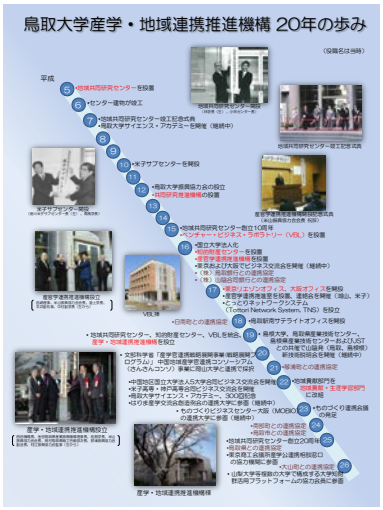
特集
鳥取大学産学・地域連携推進機構20周年記念シンポジウムの開催

●研究推進に関する事業報告
●地域貢献・生涯学習に関する事業報告
●知的財産管理運用に関する事業報告

2015
春号

特 集　鳥取大学産学・地域連携推進機構 20 周年記念シンポジウム

「産学官金連携によるイノベーション創出と地域活性化を考える」を開催しました。



3 月 16 日に産学・地域連携推進機構の前身である地域共同研究センターの設置から 20 年を迎えるにあたり、これまでの産官学連携の歩みを振り返るとともに、学内外の関係者を招いて産学官金連携によるイノベーション創出や地域活性化について議論するシンポジウムを開催いたしました。本シンポジウムには、自治体関係者や企業など学外を中心に 213 名の方、また情報交換会には 83 名の方の参加者がありました。

シンポジウムでは、豐島良太学長、松原雄平機構長の開会挨拶につづき、鳥取県 林昭男副知事、道上正規前学長から来賓挨拶をいただきました。

シンポジウム　会場

基調講演では、文部科学省科学技術・学術政策局大学技術移転推進室の山下洋室長、一般財団法人浅間リサーチエクステンションセンターの岡田基幸専務理事の 2 名の方から、産学連携に関する現状、地方大学に対する期待、企業連携、URA、コーディネーターの役割など、今後の産学連携を進めるうえで重要なお話を頂きました。事例紹介では、（株）ジャパンディスプレイの伊藤 友幸ゼネラルマネージャー、医学部附属病院次世代高度医療推進センターの植木賢教授、大学院工学研究科の伊福伸介准教授の 3 名の方から、これまでの活動と今後の取組みについて発表いただきました。またパネルディスカッションでは講演者に加え、ファンドの立場でベンチャー企業の支援を行う（株）地域経済活性化支援機構 REVIC の田中雅範ディレクター（REVIC キャピタル(株)代表取締役）もパネリストとして参加し、イノベーション創出や地域活性化を目的とした継続的な研究支援のあり方、産学連携人材の重要性等について意見交換をおこなっています。

パネルディスカッション

会場外には、産学連携による実用化事例パネル、また自治体との地域連携成果パネルの展示を行い、本学における研究成果の社会還元について来場者に紹介しました。

会場前　展示会場

本シンポジウムには、年度末のお忙しいところ、大変多くの方にご参加いただきました。日頃からのご協力に御礼申し上げます。

新規コーディネーター紹介

鳥取地区

氏名：**及川　信三**　　前職：医薬品の研究・開発

専門分野：創薬、バイオ技術に関する探索研究

抱負：企業での３０年間の探索研究、５年間の産官学連携の経験を活かして、様々な連携を推進していきたいと思っています。宜しくお願いいたします。

①研究推進に関する事業報告

1. 第３回 MIRAI サロン～医学部研究室ポスター展示並びに説明会～

【3 月 2 日(月)～3 月 9 日（月）　開催：広報センター】

MIRAI サロン（学際研究交流会）は、学内の研究者が学部や学科の枠を越えて、人材交流を行う場です。第３回 MIRAI サロンは、医学部の研究室ポスター展示と説明会として実施しました。田中理事の開会挨拶のあと、医学部生命科学科長の岡田太教授が「研究交流会の意義と展望」と題して、生命科学科の紹介と医学部研究交流会という新しい試みについてお話され、その後、医学系研究科遺伝子機能工学分野の久郷裕之教授が「研究室概要説明」と題して、この研究室紹介ポスター展示に参加している研究室の研究内容についてお話をされました。（参加者：３１名）

ポスター展示は、医学部３学科（生命科学科・医学科・保健学科）と生命機能研究支援センターから提供された、３０タイトルのポスターを展示しました。（来場者：豐島学長を含め３０名）

②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. とっとり産業フェスティバル 2014 実行委員会　【1 月 21 日（水）：鳥取県庁】

とっとり産業フェスティバル2014＆鳥取環境ビジネス交流会2014の第３回実行委員会を開催しました。各関係機関が出席する中、事務局である鳥取県商工労働部より次年度の開催方針が示され、これまでの産業フェスティバルを平成27年度は分割し、「技術フェア」、及び企業の課題解決のための「マッチング事業」を実施することが決定されました。

2. 鳥取銀行による鳥大技術シーズ紹介冊子（vol.6）の発行　【1 月】

これまで本学と様々な連携を図っている鳥取銀行から銀行顧客向けの鳥大技術シーズ紹介が発行されました。このシーズ紹介冊子では銀行員によるインタビューや共同研究先のコメントなども記載して分かりやすく作られています。

Vol.6 となる今回は、農学部 渡邉教授による「産学連携による機能性商品の開発～地域資源・未利用資源の有効活用による地域経済の活性化～」の技術シーズが掲載されています。大学 HP にも掲載されていますので、是非一度ご覧下さい。

3.広報企画展示「４タウンズストーリー」

【2 月 9 日（月）～27 日（金）：鳥取大学広報センター】

本学は地元自治体と連携して地域に徹した教育研究活動に取り組んでおり、大山・琴浦・南部・日南の４つの町とは、教員や学生が地域と強い繋がりを持ちながら様々な事業を展開しています。このたび、取り組んだ事業の成果ＰＲを目的として、広報企画展示「４タウンズストーリー（地域の課題解決に取り組んだ学生たち）」を開催しました。

各町の観光スポットや特産品などを掲載するとともに、大学と町の連携により行われた、学生たちの様々な研究を紹介するパネル展示を行うことで、町の魅力の発信と学生の今後の研究フィールドとしての可能性を紹介し、学生を地域に呼び込むきっかけを作りました。

4.鳥取大学教育研究・事業成果報告会（西部地区）

【2 月 9 日（月）：米子コンベンションセンター】

平成25・26年度に実施した鳥取大学地域貢献支援事業と、COC・地域志向教育研究事業の成果報告会を米子コンベンションセンターにて開催し、自治体職員や地域住民の方など７６名の参加がありました。いずれの事業も地域課題の解決を目指して取り組んだもので、各自治体の職員の方からも連携事例についてご報告いただきました。

このうち医学部渡邉助教からは、日南町福祉保健課と連携してがん検診受診率を向上させるための啓蒙に取り組んだ「中山間地における大腸がん検診の課題」の報告を行い、来場者は発表に聞き入っていました。

5.平成 26 年度大山町企業連絡会議研修会【2 月 13 日（金）：大山町役場大山支所】

大山町内企業で組織される大山町企業連絡会議が開催され２２名９企業の出席がありました。大山町との連携開始を機に鳥取大学も毎年参加しています。

初めに本会会長の株式会社片木アルミニューム製作所片木社長と大山町森田町長が挨拶の後、鳥取県から企業支援施策等について説明がありました。続いて境港管理組合港湾管理委員会事務局の細羽事務局長が「境港・港湾の挑戦」と題しアジア・日本におけるクルーズの動向と境港の取り組みについて説明をされました。出席者から多くの質問や提案が飛び交う活発な意見交換が行われ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

6. 平成 27 年度鳥取大学振興協力会 SS 第１回役員会及び会員総会

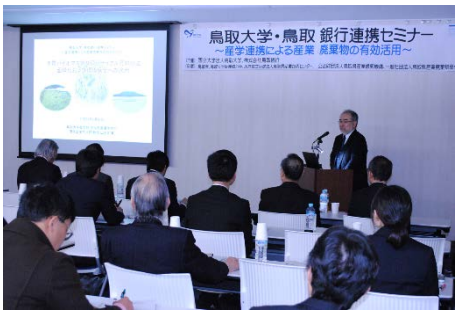
【2 月 17 日（火）：ホテルニューオータニ鳥取】

ホテルニューオータニ鳥取において振興協力会の平成２７年度総会及び交流会を開催しました。

会員企業の皆様を中心に約７２名にご参加いただき、平成２７年度の事業計画等が承認されました。このたびの総会で気高電機株式会社代表取締役社長の羽馬好幸氏が新会長に選出され、新体制でのスタートとなりました。

その後医学部景山教授より、植物抽出物の予防医療分野における産業利用の可能性について「感染予防のための植物性食品の可能性」と題した講演会を行い、最後には交流会により会員同士の交流を深めました。本会は皆様のご意見を伺いながら活発で効果的な会となるよう努めてまいります。

7. 鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー　【2 月 19 日（木）: 株式会社大協組】



本学と鳥取銀行が平成 16 年に締結した「連携協力に関する協定」に基づき、地元企業のビジネスマッチングの促進及び県内産業の活性化を目的として、「鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー」を開催しました。

７回目となった今回は、「産学連携による産業廃棄物の有効活用」をテーマに、本学からは産学・地域連携推進機構米子地区地域連携部門 増田コーディネーターが「鳥取大学産学・地域連携推進機構米子地区地域連携部門の紹介」と題し、米子地区地域連携部門の業務内容および事業成果の紹介から大学と地元産業界との交流を目的とした鳥取大学振興協力会の紹介を、また農学部 山本定博教授が「木質バイオマス焼却灰リサイクル資材の法面緑化および環境保全への適用」と題し、木質バイオマス焼却灰を利用したリサイクル資材“エコソイル R”の理化学特性および活用方法について講演を行いました。当日は、地元企業・行政機関の関係者など、計 74 名の方にご参加いただきました。

8. 平成 26 年度明治大学・鳥取大学・鳥取県連携推進協議会

【2 月 23 日（月）: 鳥取大学広報センター】

平成 26 年度明治大学・鳥取大学・鳥取県連携推進協議会を鳥取大学、明治大学間を TV 会議で繋ぎ開催し、計 28 名が出席しました。（本協議会は、平成 19 年度に締結された「明治大学・鳥取大学・鳥取県との連携協力に関する協定書」に基づき毎年度実施しているものです。）

会議では、主に平成 26 年度の事業実績及び平成 27 年度の事業計画について意見交換を行い、来年度も引き続き相互の連携を深め、各種事業を展開していくことについて申し合わせました。

9. 日野川の源流と流域を守る会総会・講演会　【2 月 23 日（月）: 米子市文化ホール】

総会・講演会が、平成 27 年 2 月 23 日（月）に「米子市文ホール」で開催されました。本会は、豐島鳥取大学長を会長として、日野川流域の自然・環境を守り、次世代へ引き継ぐため流域に暮らす住民が交流・連携を深めさまざまな活動を行っているものです。

当日は、総会に先立ち日野高等学校　木村三三男教諭から「日野川の河川生物及びオオサンシ

ョウウオ生体調査」と題して、日野高等学校での河川生物調査の活動報告、続いて、弓ヶ浜水産株式会社　鶴岡比呂志代表取締社長から「美保湾での銀鮭養殖について」と題して、東日本大震災後に銀鮭養殖を宮城県女川から、美保湾へ移し会社を立ち上げ、経営活動の報告の後、平成２７年度総会が開催され、事業案及び予算案が可決されました。

10. 大山町と株式会社カーブスジャパンによる調印式

【2 月 23 日（月）: 大山町保健福祉センターなわ】

このたび大山町と全国的フィットネスクラブ株式会社カーブスジャパンの間で調印式がとりおこなわれました。これはフィットネス利用における効果や運動等を通した健康意識の醸成により、町民の健康づくり（生活習慣病の予防、寝たきりの予防、移動困難者の減少等）と将来的な医療費削減を目的として協定が交わされたものです。

今後、効果検証については大山町と鳥取大学医学部で共同研究を行う予定です。本事業が高齢化や人口減少が進行しても持続可能な先進予防型社会を創り、地域活性化につながることを期待しています。

11. 第４回とっとり防災・危機管理研究会

【2 月 24 日（火）: 工学部附属地域安全工学センター】

自然災害などを専門とする研究者が横断的に連携し、その成果を広く地域に発信している「とっとり防災・危機管理研究会」では工学部付属地域安全工学センターを主会場に、鳥取県庁をテレビ会議で繋ぎ、鳥取大学研究者、県内防災関係者等２２名の出席のもと今年度第 4 回目となる定例会を開催しました。

今回は初めにＦＭ鳥取㈱の局長から災害時の情報伝達について話題提供があり、地元地域ラジオ局の緊急時への対応状況と今後の展望についてご説明いただきました。このほかに本研究会の研究成果を発信する防災フォーラムについて協議をおこない開催へ向け準備を進めることを確認しました。

12. 平成 26 年度鳥取大学・日南町連携事業報告会

【2 月 28 日（土）: 日南町総合文化センター多目的ホール】

平成27年2月28（土）に日南町総合文化センターを会場に「平成26年度鳥取大学-日南町連携事業報告会」が開催され、一般住民や関係者など約80名の出席がありました。

報告会では、平成26年度に鳥取大学と日南町が連携して行った13件の連携事業のうち、「住民の生きがいづくりのた

めのエコミュージアムワークショップの開発（地域学部 福田恵子教授）」「豊かな環境を守るための不在村地主対策（農学部 片野洋平助教）」の2件について、26年中に調査や実習で地域を訪れた学生らが主になって登壇し報告が行われました。

13. 平成 26 年度第３回鳥取大学・日南町ワーキンググループ会議

【2 月 28 日（土）：日南町総合文化センター多目的ホール】

平成 27 年 2 月 28（土）に、日南町総合文化センターを会場に大学教員をはじめ日南町や鳥取県の職員 30 名で構成される「連携事業ワーキング会議（平成 26 年度第 3 回）」が開催され、今年度（26 年度）の連携事業についての実績確認と新年度（27 年度）に取り組む予定の新規事業などについて協議が行われました。

平成 27 年度は、鳥取大学と日南町の連携協定が 10 周年を迎えることから、大学とまち（むら）づくり協議会が連携した 10 周年記念イベントも行われる予定です。

14. 平成 27 年度鳥取大学振興協力会第１回運営企画会議

【3 月 13 日（金）：鳥取大学産学・地域連携推進機構研修室】

振興協力会では、会員企業のニーズに応えるための活動を活性化させ、今まで以上に産業界と密接に連携するための検討を行うことを目的とした「運営企画会議」を新たに設置し、このたび第１回会議を開催しました。会員企業の実務担当者６名に来学いただき、平成２７年度の事業計画について、具体的にテーマを設定して意見交換を行いました。委員からは様々な意見や会に対するニーズが寄せられ、対応可能なものから改善に取り組んでいくこととしました。

本会議は今後も定期的に開催し、会員企業にとって必要とされる会となるための検討を重ねていくこととしています。

15. 鳥取大学天文ドーム一般公開

【3 月 14 日（土）、15 日（日）：鳥取大学共通教育棟天体観測室】

鳥取大学開放推進事業の支援を受けて鳥取大学天文観測室（天文ドーム）の一般公開を実施しました。14 日には本機構の三須教授、15 日にはさじアストロパークから職員を招いてレクチャーを行いました。

両日とも好天に恵まれ冬の星空を観測することが出来ました。また観測とあわせて天文ドームの設備見学や天文研究会の観測記録展示，工学部附属ものづくり教育実践センターの講義で開発中の宇宙教育用教材展示などを行いました。両日合わせて 63 名の参加がありました。

16. 第８回琴浦町地域活性化フォーラム　【3 月 15 日（日）：琴浦町役場分庁舎】

第8回琴浦町地域活性化フォーラムが開催され、約80名の町民が参加しました。山下町長と本学の法橋理事による開会挨拶に始まり、第1部では、地域学部地域政策学科 山下教授による「地域調査実習」の成果報告が行われ、参加者は熱心に聞き入っていました。

第2部では町内14団体が、新たな発想でのまちづくりに向け、今年度の成果を発表しました。

17. 鳥取県との連携協定調印　【3 月 17 日（火）：知事公邸】

鳥取県と鳥取大学は、県が寄附講座として開設する「メタンハイドレート科学コース」について協定を締結しました。メタンハイドレートの教育研究を行う専門コースは全国初となります。設置期間は平成 27 年 10 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日までで、今後半年の準備期間を経て来年 4 月の開講を目指します。

18. 中部地区産学金官連携推進連絡会 第３回農商工連携ＷＧ会議及び第３回事務局会議

【3 月 18 日（水）：鳥取県中部総合事務所】

今年度第 3 回目となる中部地区産学金管連携推進連絡会農商工連携ワーキンググループ会議及び事務局会議が開催されました。これは鳥取県内中部地区の企業や行政の情報交換の場として開催されているものです。この日は全員で２０名の出席があり、企業とのコラボ商品の進捗状況や次年度の農商工連携支援事業の説明がありました。また、事務局会議では来年度の総会の開催内容について協議が行われ、昨年同様、各団体が力を入れている事業についてＰＲをすることが決まりました。

19. 第４回とっとりグランマ倶楽部実行委員会【3 月 19 日（木）：鳥取大学事務局棟第 1 会議室】

鳥取県、明治大学、鳥取大学による連携講座「とっとりグランマ倶楽部」の第 4 回実行委員会を、鳥取大学・明治大学間を TV 会議で繋ぎ開催しました。

本会では、来年度のとっとりグランマ倶楽部の開催方針について検討を行い、その結果、様々な分野で活躍している女性を講師にお招きし、リーダーシップやマネジメント等について学ぶ内容の講座とすることが決定しました。今後、具体的なカリキュラムの決定と講師選定を行い、参加者募集を行っていきます。

20. 平成 26 年度持続的過疎社会形成研究プロジェクト研究報告会

【3 月 19 日（木）：鳥取大学広報センター】

持続的過疎社会形成研究プロジェクトによる平成 26 年度研究報告会を鳥取大学広報センターで開催しました。

今回は、自治体が保有する公共データの効果的な活用による今後の政策展開への可能性を、「観光」「健康」分野における研究成果を事例に発表しました。本学工学研究科 桑野准教授（「有名観光地との連携施策立案のための観光周遊行動分析」）、及び鳥取環境大学 倉持准教授（「高齢者の買い物行動が健康維持に及ぼす影響の分析」）による発表に、聴講者は熱心に聞き入っていました。

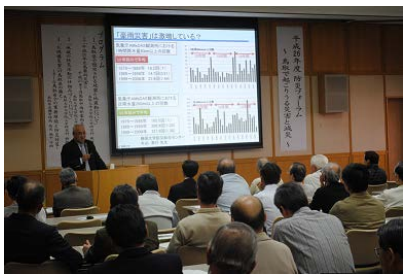
21. 平成 26 年度大山町・鳥取大学連携事業報告会　【3 月 27 日（金）：大山町役場】

大山町は平成 26 年 3 月に鳥取大学と連携協定を結び、大学の知的資源・人材を活用して地域課題の解決に向けた実践的な取り組みを大学と共同でおこなわれています。本報告会では今年度に鳥取大学と大山町が取り組んだ主な事業について担当教員が報告をおこないました。

今回は大学院工学研究科の桑野准教授から観光周遊行動分析についての報告後、医学部冨田教授からブロッコリー残菜再利用プロジェクトについて、最後に大学院工学研究科　黒岩教授から学生派遣による人材育成プロジェクトについての報告では、実際に本プロジェクトに参加した学生による説明もあり、約 40 名の参加者は学生が述べる新鮮で素直な感想にとても興味深く聞き入っていました。

22. 平成 26 年度防災フォーラム　【3 月 28 日（土）：鳥取県立図書館大研修室】

とっとり防災・危機管理研究会では、毎年、研究成果を広く地域社会に発信するため、防災フォーラムを開催しています。今回はテーマに「鳥取で起こりうる災害と減災」を掲げ、4 名の講師にご講演いただきました。



まず、鳥取大学工学部教員が地震、土砂、津波など県内で起こる可能性のある災害と、それに対する備えについて発表されました。その後、鳥取危機管理局の城平局長より、大規模災害への備えとして、鳥取県としての行政機能の業務継続や防災対策について説明をしていただきました。行政職員や鳥取市自主防災会員を中心に約 150 名の参加があり、会場では多くの質疑が交わされ、防災についての関心の高さがうかがえました。

今後もとっとり防災・危機管理研究会では地域と連携し、安全・安心な地域社会を目指し、地域の防災、危機管理意識の向上を図るため研究を続けていきます。

23. 冬の手づくりまつり　【1 月 25 日(日)開催：鳥取市文化センター、1 月 18 日（日）開催:伯耆しあわせの郷、2 月 15 日（日）開催：米子市児童文化センター】

県内三つのものづくり道場で子どもたちを対象に「冬の手づくりまつり・教室」を開催しました。

「LED工作」、「レゴロボットをうごかそう」、「親子deパン」等のブース出展があり」、3会場全体で合計12ブースを出展し、約251名の子どもたちがものづくりを楽しみました。平成27度も開催予定です。

③知的財産管理運用に関する事業

1. キャンパス・イノベーションセンター（CIC）新技術説明会

【1 月 22 日(木)　開催:キャンパス・イノベーションセンター（CIC）東京】

CIC 東京に入居する 10 大学が合同で、ランセンス・共同研究可能な技術（未公開特許を含む）について発表を行う新技術説明会を開催いたしました。本学からは、特許出願シーズに基づく大学院工学研究科の井澤助教による「シクロデキストリングラフト化キトサンの簡易調製」 、農学部の岡本教授による「美味しくて健康によいペットフード製造装置」、農学部の岡講師による「きのこ由来揮発性抗菌物質の探索とその利活用」の 3 テーマについて口頭発表及び企業との個別相談を行っています。本説明会には、217 名の参加者があり、現在当該技術に興味を示した企業との連携が進んでいます。

2. 鳥取大学特許集２０１５を発行　【3 月】

鳥取大学特許集は、本学で出願した特許を分かりやすく紹介し、技術移転に結び付ける目的で、2009 年（平成 21 年）から毎年発行しています。今年で 7 号目となる本号では、全 61 シーズが掲載されており、その内未公開特許を中心に新規案件を 10 シーズを追加致しました。技術分野を、医療・健康、食品・バイオ、農業・畜産、機械・加工、材料・化学、情報・制御、環境・エネルギーの 7 分野に分類し、ニーズ目線でわかり易くまとめていますので、是非活用ください

3. 中国地域さんさんコンソ外部評価委員会

【3 月 25 日(水)　開催：岡山大学本部棟第 1 会議室】

中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）の平成 26 年度事業に係る外部評価委員会が岡山大学で行われました。事務局から 26 年度事業内容を報告し、委員からコメントを頂きました。後半は事務局から中国地域における産学官連携をめぐる動き、27 年度事業計画が説明された後、意見交換が行われました。さんさんコンソ事業のみならず、大学の産学連携活動全体についても参考となる貴重な意見が得られました。

発行日：平成 26 年 4 月 15 日＜第 40 号＞
所在地：〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101
TEL：0857-31-5609　Fax：0857-31-5571
連絡先：鳥取大学産学・地域連携推進機構
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/
E-mail：ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp